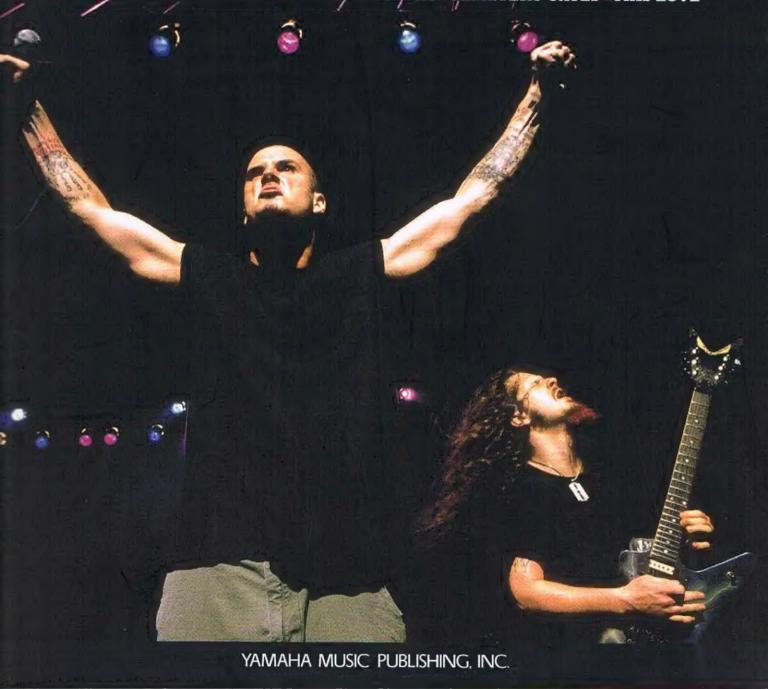
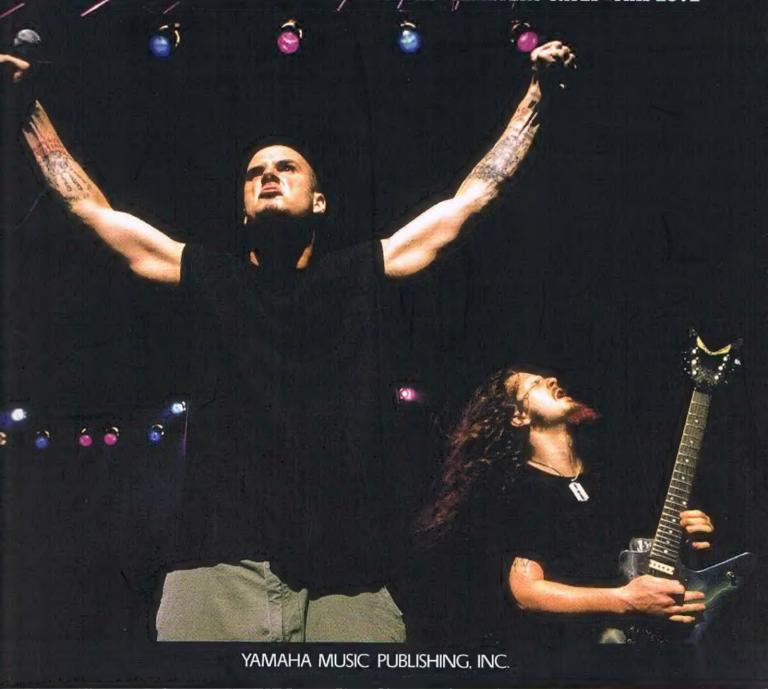


COWBOYS FROM HELL PRIMAL CONCRETE SLEDGE MOUTH FOR WAR WALK FUCKING HOSTILE 5 MINUTES ALONE THE GREAT SOUTHERN TRENDKILL HELLBOUND GODDAMN ELECTRIC STRENGTH BEYOND STRENGTH BECOMING I'M BROKEN PSYCHO HOLIDAY CEMETERY GATES THIS LOVE





COWBOYS FROM HELL PRIMAL CONCRETE SLEDGE MOUTH FOR WAR WALK FUCKING HOSTILE 5 MINUTES ALONE THE GREAT SOUTHERN TRENDKILL HELLBOUND GODDAMN ELECTRIC STRENGTH BEYOND STRENGTH BECOMING I'M BROKEN PSYCHO HOLIDAY CEMETERY GATES THIS LOVE





CONTENIS

COWBOYS FROM HELL カウボーイズ・フロム・ヘル 4 from the album "COWBOYS FROM HELL"

PRIMAL CONCRETE SLEDGE プライマル・コンクリート・スレッジ 16 from the album "COWBOYS FROM HELL"

MOUTH FOR WAR マウス・フォー・ウォー 26 from the album "VULGAR DISPLAY OF POWER"

WALK DATE 44 from the album "VULGAR DISPLAY OF POWER"

FUCKING HOSTILE ファッキング・ホスタイル 52 from the album "VULGAR DISPLAY OF POWER"

5 MINUTES ALONE 5ミニッツ・アローン 62 from the album "FAR BEYOND DRIVEN"

THE GREAT SOUTHERN TRENDKILL ## 69
from the album "THE GREAT SOUTHERN TRENDKILL"

HELLBOUND ヘルパウンド 85
from the album "REINVENTING THE STEEL"

GODDAMN ELECTRIC ガッデム・エレクトリック 100

STRENGTH BEYOND STRENGTH ストレングス・ビョンド・ストレングス 117
from the album "FAR BEYOND DRIVEN"

BECOMING ビカミング 130 from the album "FAR BEYOND DRIVEN"

I'M BROKEN アイム・ブロークン 137
from the album "FAR BEYOND DRIVEN"

PSYCHO HOLIDAY サイコ・ホリディ 145 from the album "COWBOYS FROM HELL"

CEMETERY GATES セミトリー・ゲイッ 155 from the album "COWBOYS FROM HELL"

THIS LOVE FIX.FO 174

COWBOYS FROM HELL

カウボーイプ・フロム・ヘル

Words & Music by Vincent P. Abbott, Darrell L. Abbott, Rex R. Brown and Phillip H. Anselmo

イントロ1で鳴っているシーケンサー・フレーズは、恐らくギターの音をサンプリングしたものだろう。この程度ならサンプリング・マシーンを使わなくても、デジタル・ディレイを使えば、同様の効果は出せる。5小節目からはギターが登場。右手を弦にくっつけるようにして、ミュート・プレイをしている。これと同じリフをイントロ2ではミュートなしで行なっている。ここからはギターとベースのユニゾンだ。リズムはしっかりと合わせよう。この曲は16ビートだ。テンポは決して速くないが、1つ1つの音符を正確にプレイしよう。イントロ3から弾いている

ギターのリフもリズムが重要だ。ここは歯切れ良いピッキングで16分音符を弾くようにしたい。ドラムの基本パターンはハイハットを8つ刻んだモノになっているが、決して8ビートのノリで叩かないように。意識は16ビートだ。またハイハットはハーフ・オープンにして、力強く叩こう。正はギター・ソロ。ここではディストーションを目一杯掛け、ディレイを少し加えると良いだろう。5小節目からはかなりスピードの速いフレーズが連続して出てくる。6連符、7連符といった変則的なリズムが多く出てくるので注意しよう。























annnnnnn n far













PRIMAL CONCRETE SLEDGE

プライマル・コンクリート・スレッジ

Words & Music by Vincent P. Abbott, Darrell L. Abbott, Rex R. Brown and Phillip H. Anselmo

この曲ではギターの6弦とベースの4弦がD音に下げられている。イントロからD音を強調した16ビートのパターンがベースに登場。ちなみにイントロの最初で弾いているギターはアーミングやピック・スクラッチを使ったノイジーなプレイ。この部分はディレイを掛けて弾くと効果的だ。ドラムはバスドラを16分音符で連打しており、ダブル・ペダルを使って正確にプレイしたいところだ。イントロの5小節目からのギター・リフは16分音符3つで1つのパターンとなっており、複雑なリズムだ。ベースとドラムと共に正確なビートをキープして、小節を見失わないように、しっかりとしたリズム感がないと、ちょっと難しいかも。こ

れはAからのヴォーカルにも言える。いわゆるリズムに歌詞をしっかり乗せられるかが問題だ。 Aの8~9小節目の変拍子の部分なども主意、で演奏しよう。Cの部分ではリズムのノリが変わる。ここでのギターは単音でのメロディ・プレイだ。ここはハンマリングやプリンクのテクニックで、トリルの要領で弾いている。Dの13~15小節目ではオーバー・ダビングされたギターが、スピードの速いフィル・イン・フレーズを弾いている。ここは1つ1つの音をしっかりオルタネイト・ピッキングで弾こう。



© 1990 by WARNER TAMFRILANE PUBLISHING CORP All Rights Reserved Pure rights for Japan administered by YAMAHA MUSIC PUBLISHING INC







naaaaaaaa













o ar ne a^{gre}ó. Ar











MOUTH FOR WAR

マウス・フォー・ウォー

Words & Music by Vincent P. Abbott, Darrell L. Abbott, Rex R. Brown and Phillip H. Anselmo

ギタ とベースによる、パワノルなユーゾン・リノから曲はスタ ト。 へヴィなティストーションの掛かったサウンドはエフェクターの使い方が特徴的で、高音がブーストされ、ディレイも少し掛けてある。ドゥム・サウンドもかなり硬めで、金属音のような処理がされている。各自の工夫が必要だ。イントロ1の部分ではベースのアクセントをしっかりとつけて、各楽器のノリを合わせてプレイしよう。イントロ2のリフはスライドのテクニックを上手く使ったものだ。ギター&ベース共にここ

は滑らかに弾くようにしよう。イントロ2の8小節目あるギタ のXEIの音は左手で弦をミュートしながらピッキングしているモノだ。高音のハーモニクスを鳴らすようにして、東、激的なノイズになっている。 Dのギター・ソロ。後半の速いフレーズでは、オルタネイト・ピッキングで1つ1つ力強く弾くように心掛けよう。また、最後のフレーズだけ2拍の長さでディレイが掛けられている。 Eからはテンポが変わっているので注意。かなりアップ・テンポなのでリズムがモタらないようにしよう



© 1992 by WARNER TAMERLANE PUBLISHING CORP All Rights Reserved Print rights for Japan administered by YAMAHA MUSIC PUBLISHING INC



















- APA -



















haanaasii (

















WALK

ウォーク

Words & Music by Vincent P. Abbott, Darrell L. Abbott, Rex R. Brown and Phillip H. Anselmo

この曲は8分音符がすべて3連符のノリになっているので、注意しよう。また、ギター&ベース共に最低弦がD音に下げてある。ギターは相変わらずの破壊的なヘヴィ・サウンドでベースやドラムは硬質なサウンドが特徴的だ。1音1音が非常にパワフルでもある。ゆったりとしたテンポと共にドッシリとした重たい演奏を心掛けよう。ここでも、彼等らしい不思議なコート進行が出てくるので、譜面は無調という形にしてあ

る。中心となるのはDのコードのようだ。Fはギター・ソロ。最初のフレースは2つの音を同時にチョーキング。また、2音や2音半チョーキングのフレーズも出てくるので、音程には気をつけよう。その他にもスライドのテクニックも効果的に使われている、出来るだけ丁寧なプレイを心掛けよう。





















foodathaf



Repeat & Fade Out



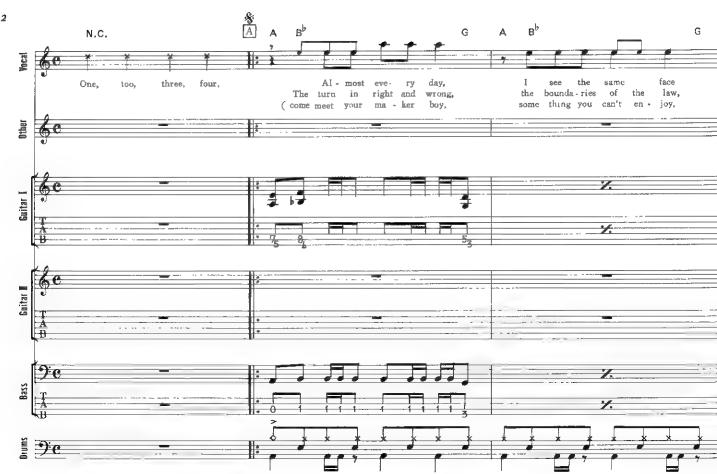
FUCKING HOSTILE

ファッキング・ホスタイル

Words & Music by Vincent P. Abbott, Darrell L. Abbott, Rex R. Brown and Phillip H. Anselmo

かなりテンポの速いナンバーだ。譜面では16ビートのリスムで書いてあるが、ドラムのパターンはアップ・テンポの8ビートと考えた方が良いたろう。本の部分は5小節のパターンを繰り返している。ここはギターとベースがユニゾンのリフになっているので、リズムが乱れないように。ドラムもスピードの速さと力強さが要求されるプレイだ。バスドラはスピード感のある16分音符を踏んでいて、ダブル・ペダルがないと辛

いだろう。 Tの部分はギター・ソロ。このソロではティストーションの他にワウ・ペダルをエフェクターとして使っている。 スピードの速いフレーズが多く出てくるが、ワウ・ペダルは 2 担ぐらいのタイミンクで比較的ゆったりとペダリングしているようだ。 Dの5~7小節目の16分音符によるフレースは非常にスピードの速いものだが、オルタネイト・ピッキングで1音1音しっかりと弾いていこう。



© 1992 by WARNER TAMERLANE PUBLISHING CORP All Rights Reserved Print rights for Japan administered by YAMAHA MUSIC PUBLISHING INC

52











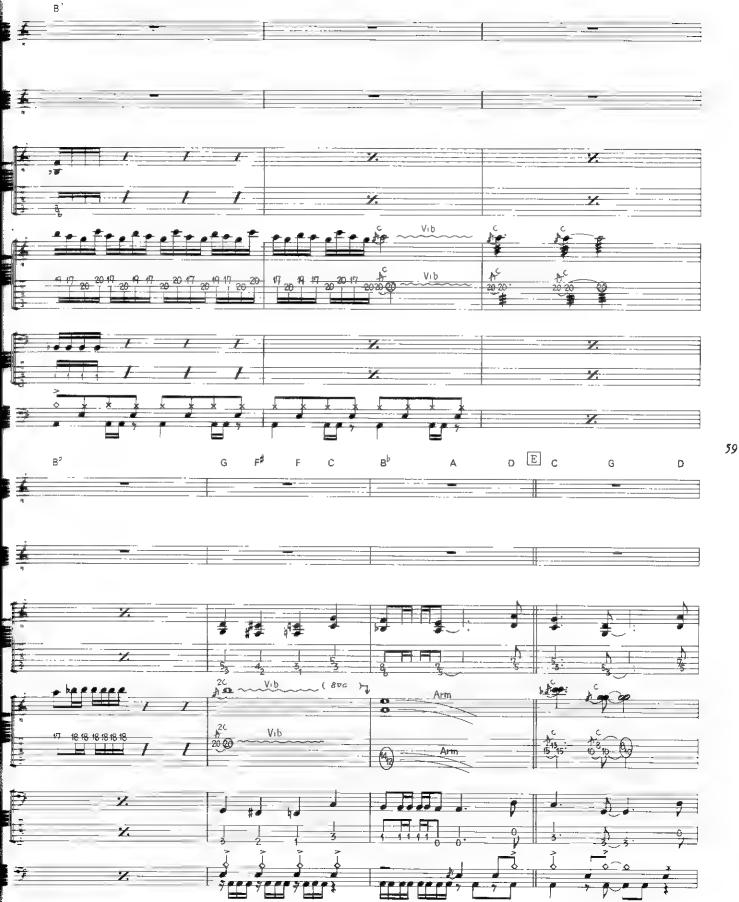


















5 MINUTES ALONE

5 マニッツ・アローン

Words & Music by Vincent P. Abbott, Darrell L. Abbott, Rex R. Brown and Phillip H. Anselmo

この曲はギター&ベース共に1音下げて演奏されている。イントロのキター・リフのスライドは、人差指で6弦を押さえ、薬指または小指で5弦を押さえるようにし、強めにピッキングして、素早く次のポジションへ移動する。その後のブラッシングは、左手の4本の指を軽く弦の上に乗せ、6本の弦(ベースは4本)すべてをピッキングする。Bのミュートは右手をブリッジの上に乗せ、カー杯ピッキングして弾こう。日の

N.C.

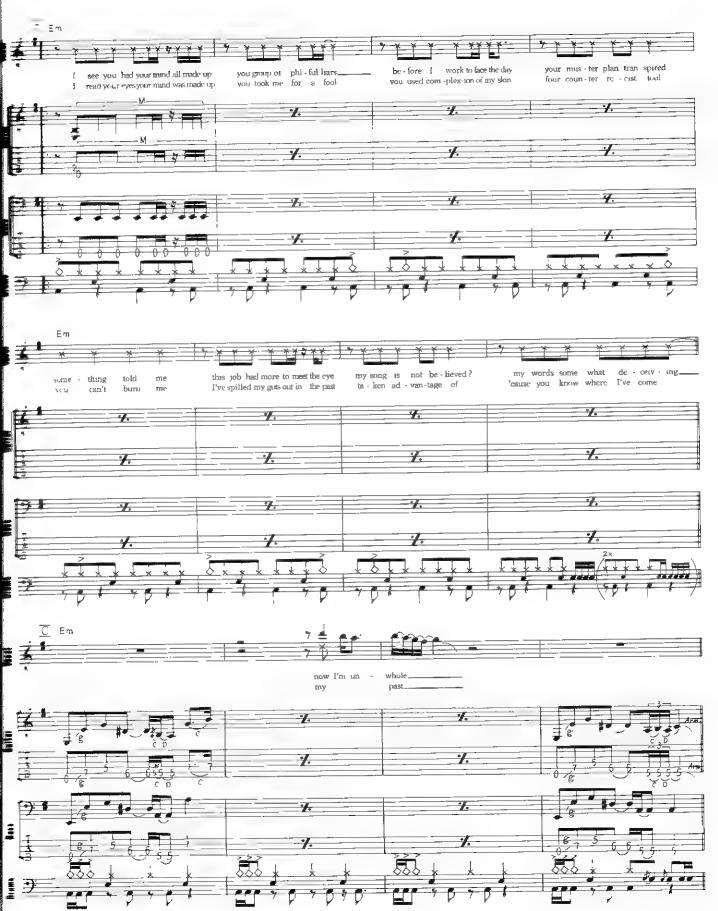
A Em

ギター・ソロの5小節目からは、ワウ・ペダルが掛けられている。キャーの音色は、ディストーションを目一杯掛け、グライコを持っているは中音域を下げて、低音域と高音域を上げたV形のセッティングにすると近いサウンドになるだろう。深めのロング・ティレイと J ヴァーヴェ掛けられている。ペースはHでチョーキングが登場するが、チューニングが 1 音下げだから、意外に楽に出来るはずだ。



© 1994 by WARNER TAMERLANE PUBLISHING CORP All Rights Reserved Print rights or Japan administered by YAMAHA MUSIC PUBLISHING INC.



















Manananana.

THE GREAT SOUTHERN TRENDKILL

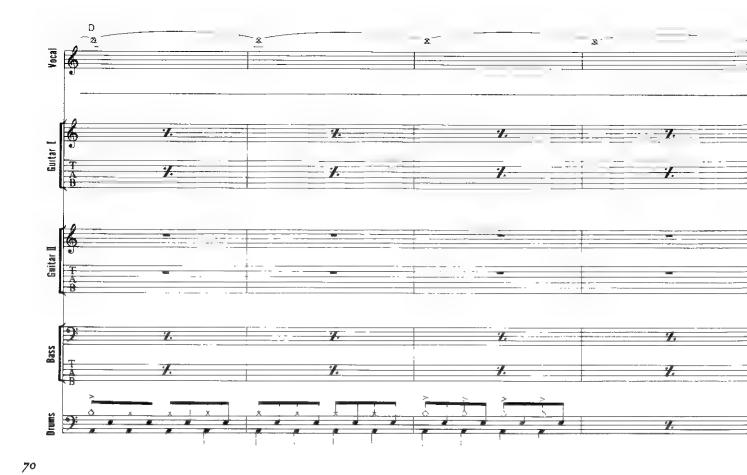
鎌崖

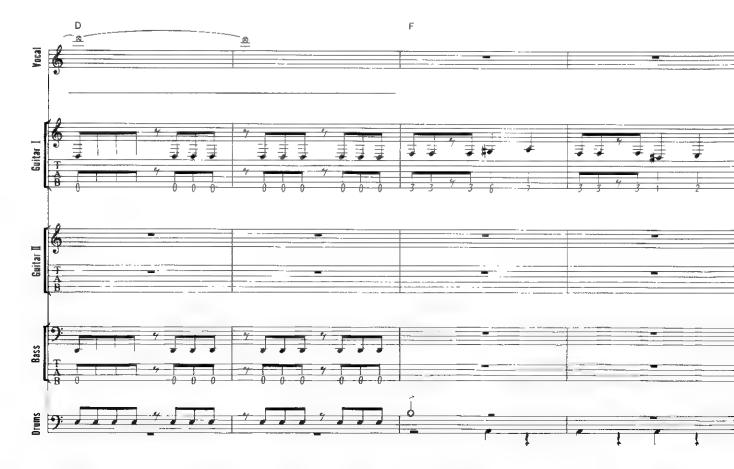
Words & Music by Darrell L.Abbott, Vincent P.Abbott, Rex R.Brown and Philip H. Anselmo

□ 田もそうなのだが、このアルバムの多くの曲は、ギターやベースーマッ・チューニングでは鳴っすことの出来ない低いDの音が弾かる。キターのダイムバッグ・ダレルによると、これらはすべてギーロのチューニングを一音下げているための様だが、譜面ではよりで、16弦のみを一音下げたチューニングでのタブ譜を記しておった参考にしてもらいたい。もちろん、全体を一音下げて弾いてもまった。が、その場合、タブ譜の数字か違ってくるので気をつけてもった。この曲のイントロは、かなりハイ・スピードのフレーズになって、ブムがもたついたりしないように、ドラムのビートを中心するようでも合わせてプレイするようにしよう。途中で何度かリズ

ムのノリが変化している部分がある。こう言ったリズムの変化は、バンテラの特徴のひとつでもあるのだが、バンドの息が合ってないとうまく 演奏することは出来ない。Fでは4分の6拍子になっており、さらに Hではテンポも変化している。この旧は、ギターのリフがひとつの合図となっているので、ここはしっかりと弾いてもらいたい。 正は、ギター・ソロとなっている。このソロの後半では、ボトル・ネック奏法も 行われている。これはボトル・ネック・バーを左手の小指などにつけて スライド奏法を行っているものだが、このギターは、オーバー・ダビングで重ねられたもののようだ。 」のGuttar [[も、2本のギターが重ねて録音されている。







Pannanas **









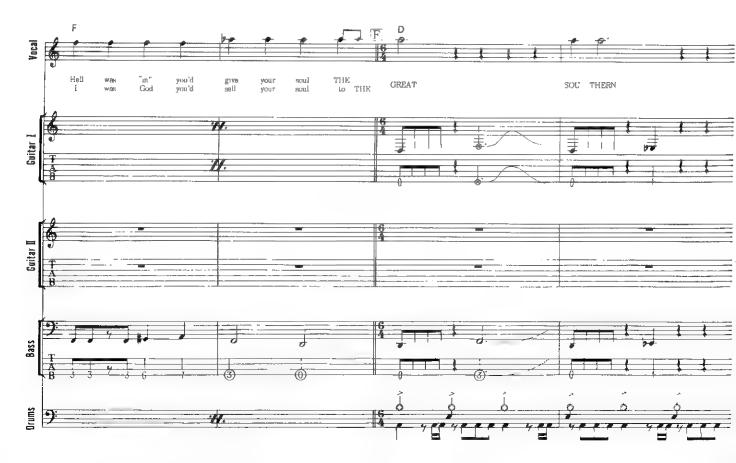
as a a a a a a a a a a a a a a a a a a

















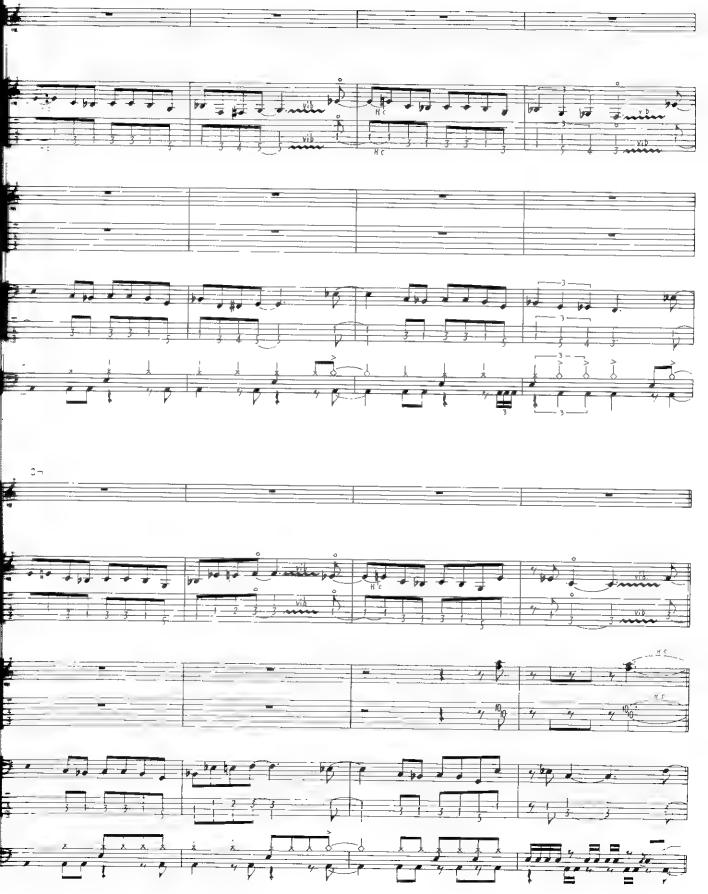












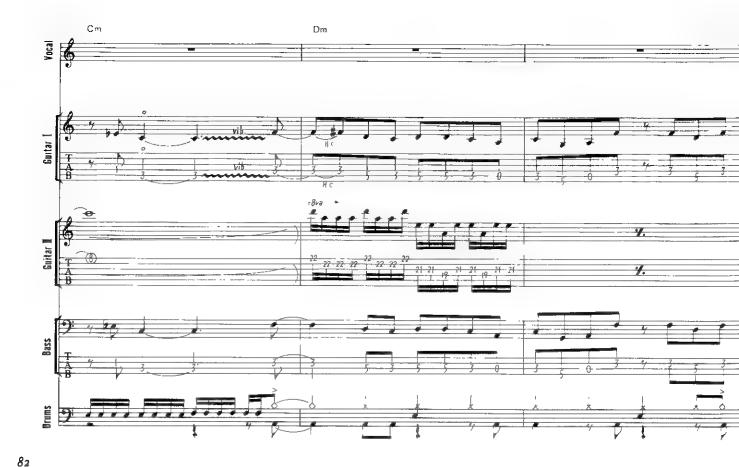




raan nexel





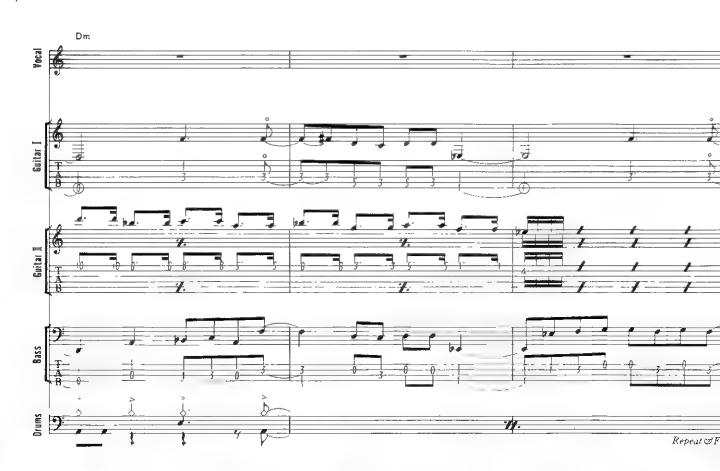


an and and









HELLBOUND

Words & Music by Vincent P. Abbott, Darrell L. Abbott, Rex R. Brown and Phillip H. Anselmo

ー・ソロもなくシンプルに構成されたナンバー。ギター&ベース

★1音半下げのチューニングになっている。ギターは、この曲で

「大ートがあるが、ほぼユニゾンでプレイされているので、1本に

て表記してあるので注意しておこう。イントロから「Alにかけては

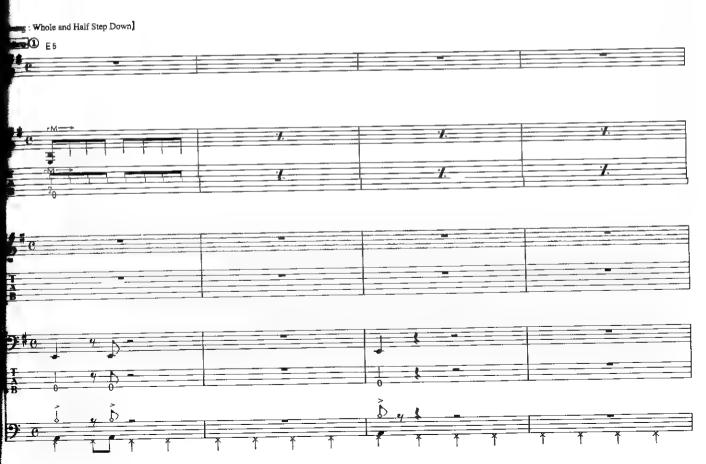
フー・コード(ルート&5度)での8分ミュートで、大きな揺れの

ジャー・エフェクトが掛けられている。「B]の4小節目はAのパワコードを半音分位チョーキングするようなニュアンスだ。20小節目

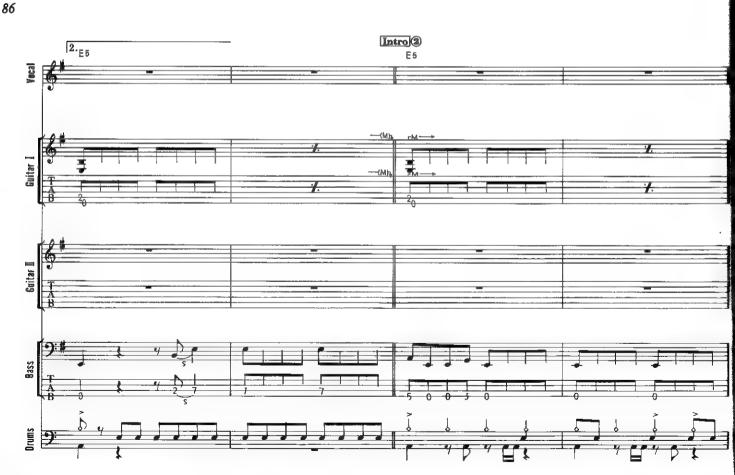
イク部分ではワーミー・ペダルで音程をアップさせる。2オクタ

「こなるようにセットして、タイミング良くペダルを踏み込もう。

©はパワー・コードをミュートしながらのリフ。休符を意識してリズミカルにプレイしよう。9小節目からは少しパターンが変化するので注意しておくこと。 □でも4~8小節間等でワーミー・ペダルが大胆に使われている。ここではワーミーをエフェクティブに操作しながら、ピック・スクラッチをキメているようだ。ペダルの使い方やピック・スクラッチの仕方は原曲のニュアンスをよくチェックするように。ベースはギターに沿ったシンプルなルート弾きが中心なのでそう問題はないだろう。ドラムは、 □□ではタム回しでのパターンなので、テンポやスピード感がなくならないようにしっかりプレイしてほしい。



85















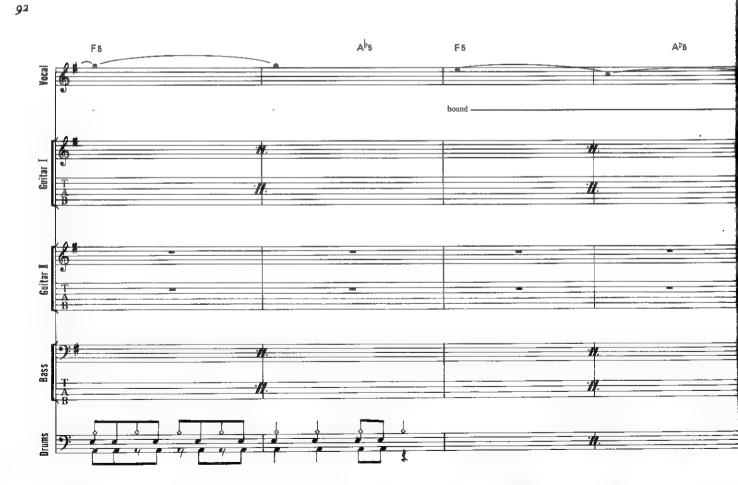






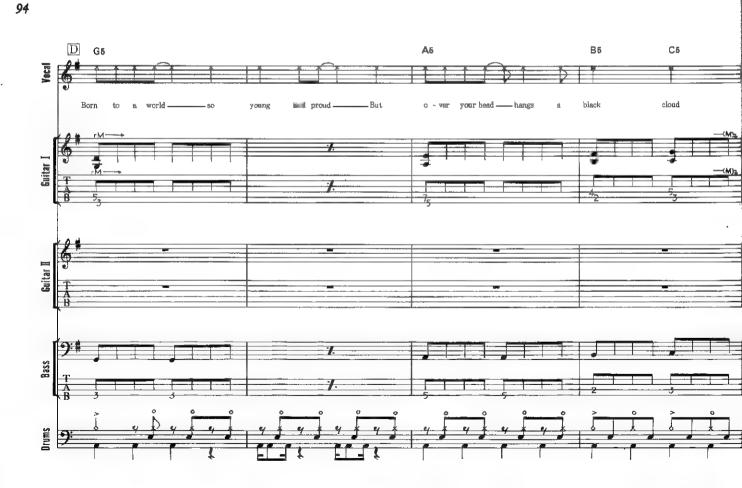


Ę5



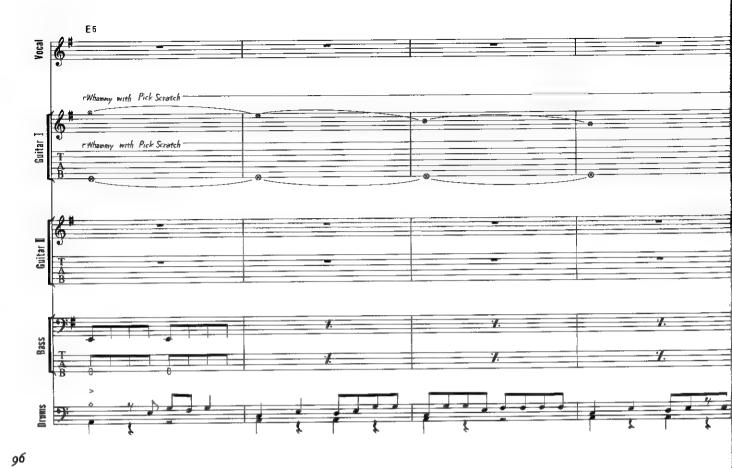












y-

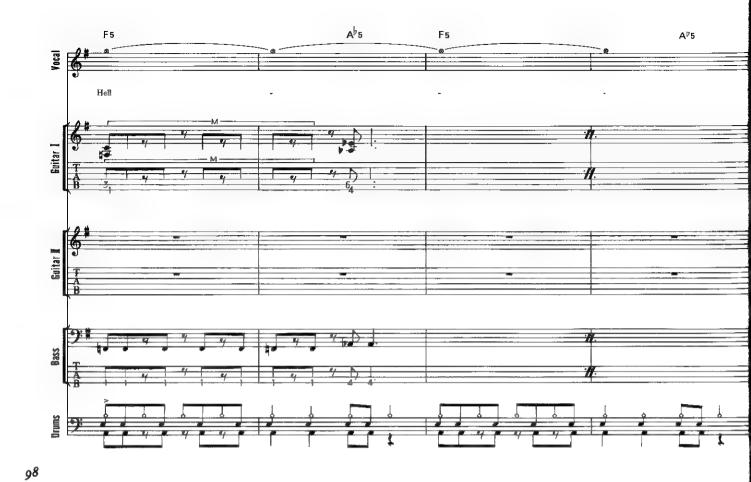


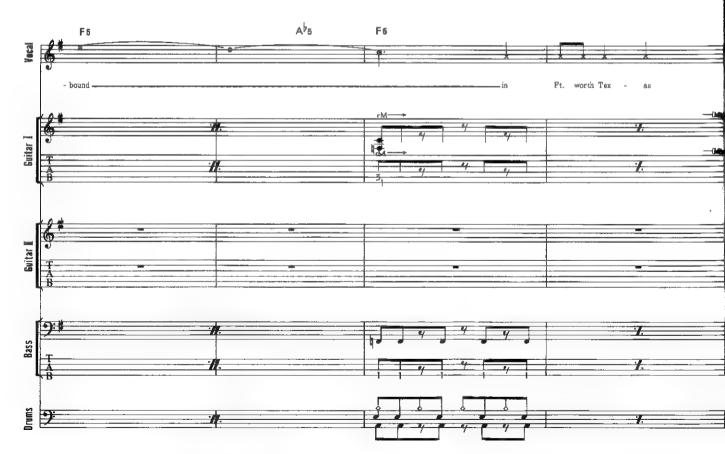
ina a a to





E5









GODDAMN ELECTRIC

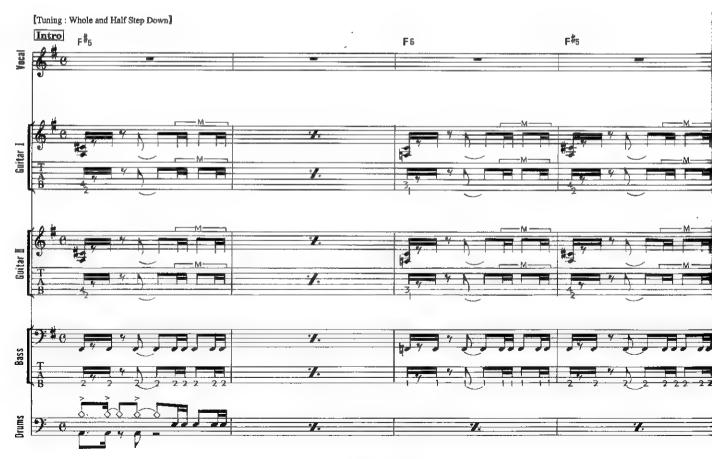
ガッデム・エレクトリック

Words & Music by Vincent P. Abbott, Darrell L. Abbott, Rex R. Brown and Phillip H. Anselmo

リズミカルなヘヴィ・リフが炸裂するナンバー。チューニングは全弦 1音半下げで記譜してあるので注意しておこう。イントロのギターは休 符をしっかり意識して弾くと歯切れ良く聴こえるはず。「Aのリフは6弦 6个のグリスを大胆にキメよう。8小節目の3拍目はAのパワー・コードでアーム・ダウン。「B)からはテンポとリズムが変わる。3 連の良ん中をしっかり休んで、ダッタダッタをいうリズムになるように。「Dは4弦3でクォーター・チョーキング気味にちょっとベンドする感じで表情をつけよう。「L)からは16分フィーリングでの細かいリフ。ミュートの有無のメリハリをしっかりつけよう。「Mの2小節目はプリング・オフを使った6連フレーズ。左手を素早く、しっかりとフィンガリングしよう。7、8小

節は1音半や2音のチョーキングが出てくるが、チューニングを下げているので弦のテンションが低く、ラクにベンド出来るだろう。②のGt2 は大胆なアーミングでのノイズ風なリード・パートなので、コピーするのは至難の技だ。自分なりに雰囲気をマネてプレイしてみよう。ベースは基本的にギターに沿った形でのアプローチ。チューニングが下がっているので音程をはっきりさせるようにサウンドにも注意しておきたい。4 ター同様、休符をきちんと意識して歯切れ良くプレイしよう。ドラムはテンポやリズムが変化するので、予め構成やパターンをしっかりチェラクしておこう。

100

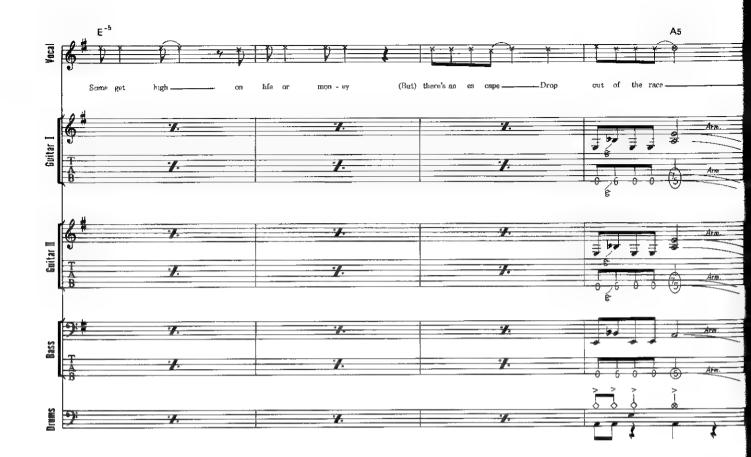




F[‡]5



F5









. <u>د</u> E5

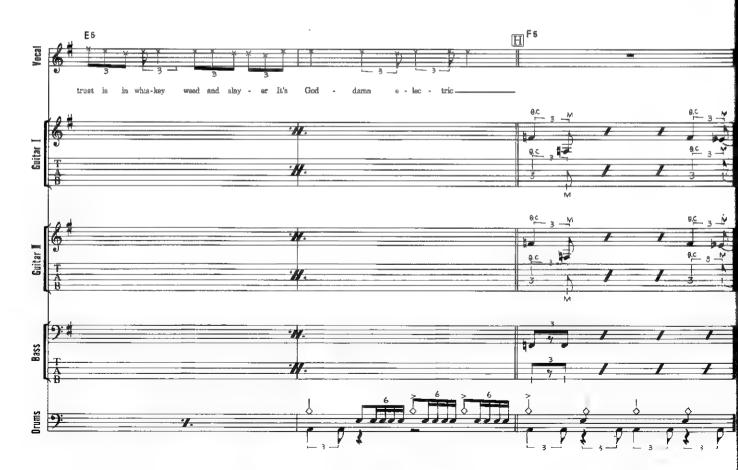












an n nast





fake





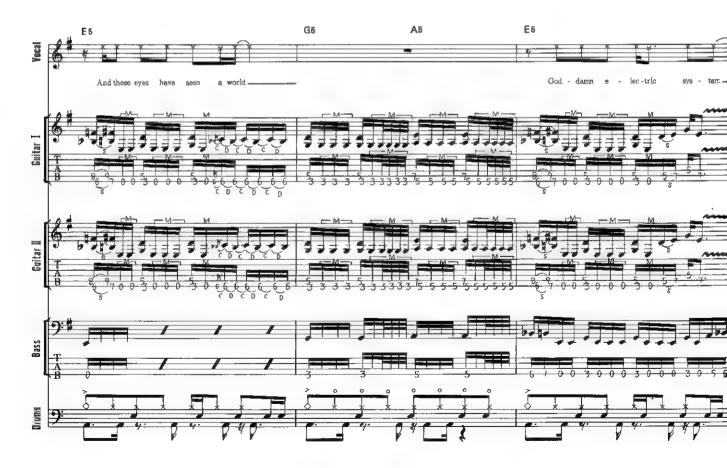




∏E5

— E5



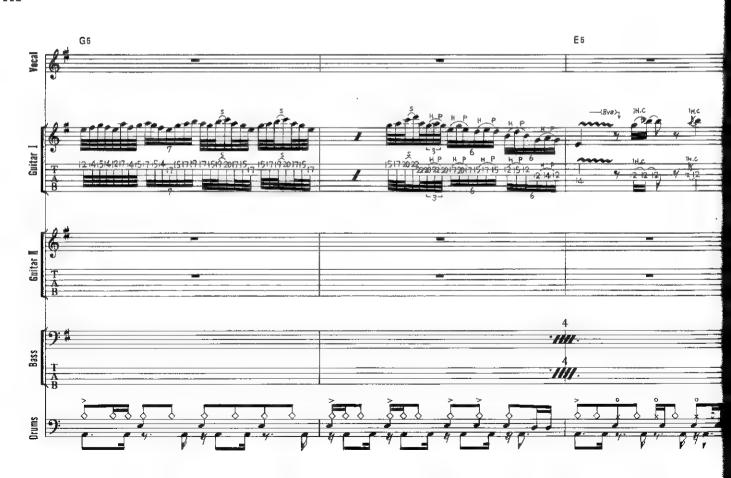


















change in you God-dams is e-lec-trice

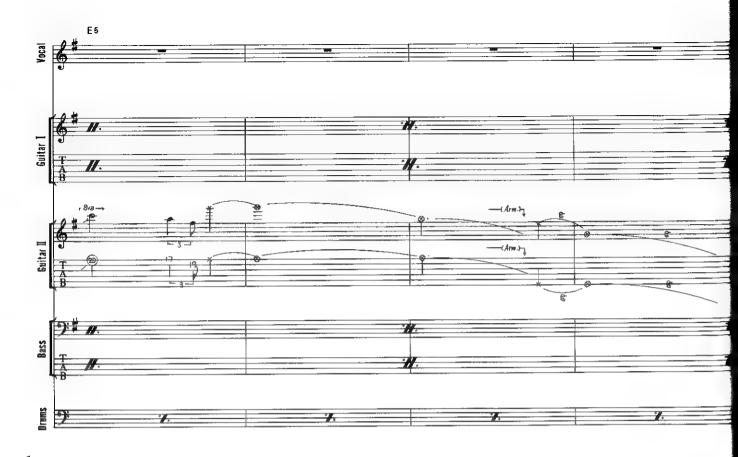
(Goddamn electric)

(Goddamn electric)

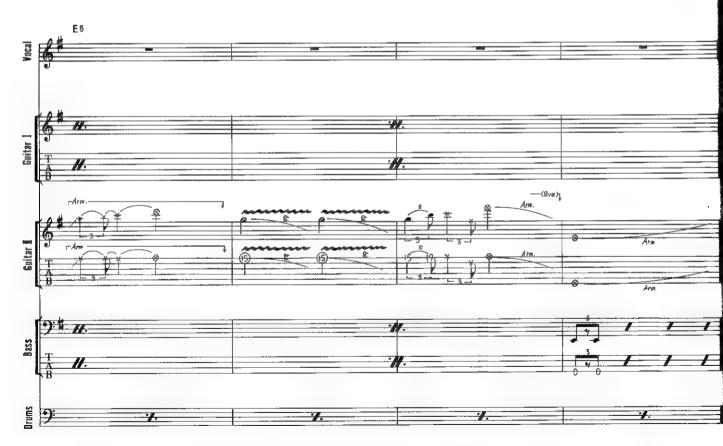
anaaaaaaaaateeks











'Waaaaaa.

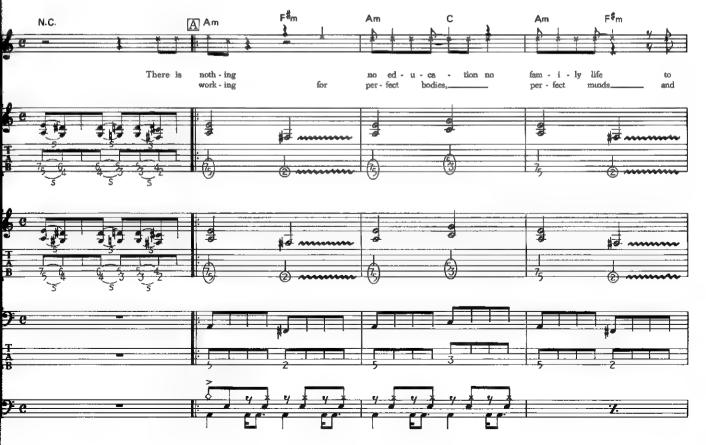
STRENGTH BEYOND STRENGTH

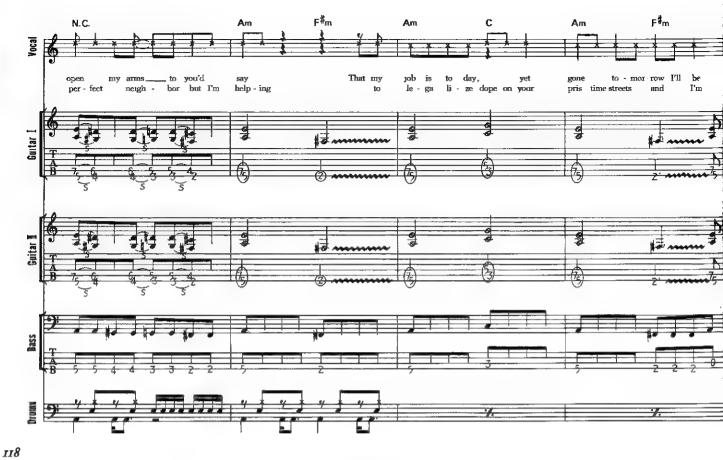
ストレングス・ビヨンド・ストレングス

Words & Music by Vincent Paul Abbott, Darrell Lance Abbott, Rex Robert Brown, Philip Hansen Anselmo

及のギターのリフは、コードの変わり目で素速くポジション移動をしないと音切れしてしまうので注意しよう。ここの6弦2fのビブラーは目一杯のスピードで強めにかけよう。固のギターはミュートして xる部分と、ミュートしていない部分の区別をしっかりつけて弾くのが fイントだ。圓4小節目の2拍3連はキメ部分なので、バンド全体の f イングが合うようにしっかり練習しよう。圓9小節目の2拍3連 f 様にタイミングに注意し、次のスタッカート部分でのドラムは、シェバルの音が残らないように空いている方の手でしっかりミュートする c 。□回の、ギターとベースによる2小節単位のフレーズは、完全 t ユニゾンのため、2人のコンビネーションが重要な部分だ。ここはハマリング・オン、またはプリング・オフを行うとき、つまり、6弦 ベースの場合は4弦)の開放と2fを弾くときにタイミングを合わせる

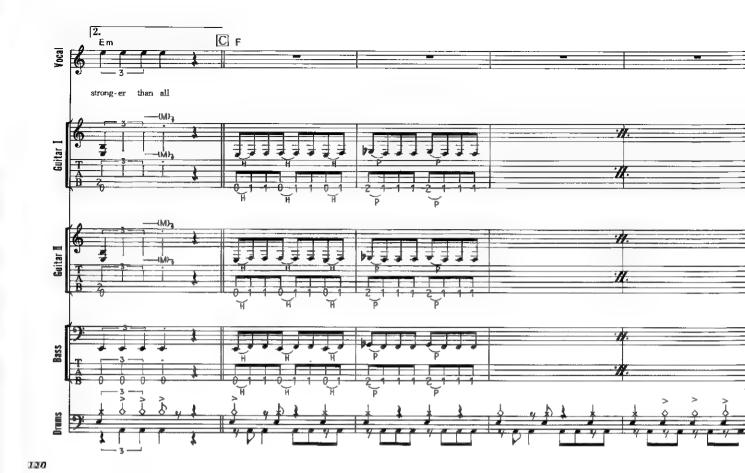
と上手くいくだろう。©のギターは5、4弦の3fを押さえてアーム・ダウンし、アームをダウンしている間に左手のポジションを5、4弦の4fにチェンジして、3拍目でアーム・リターンすれば良い。豆1~16小節目までのGuitar2は、ワーミー・ペダルを使い、実際に弾いている音にピッチ(音程)の違う音をミックスして弾いている。エフェクト音はオクダーヴ上から更に3度~5度上の範囲で変化していて、基本的に回1、2小節と5、6小節は長3度、回3、4と7、8小節は5度、回4度で弾いているが、ここはエフェクト音を効果的にわざと不安定な音程で表現しているため、それほどピッチにこだわる必要はない。ギター・ソロの最後、□最終小節の3、4拍目は3拍目と4拍目の間に素速くポジションを移動して弾く。

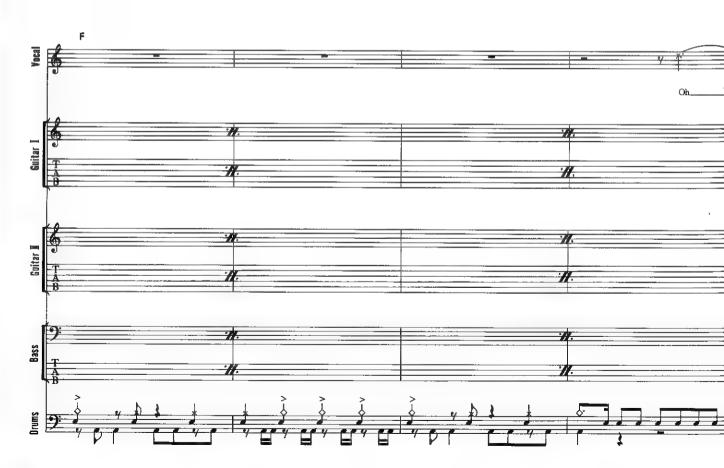


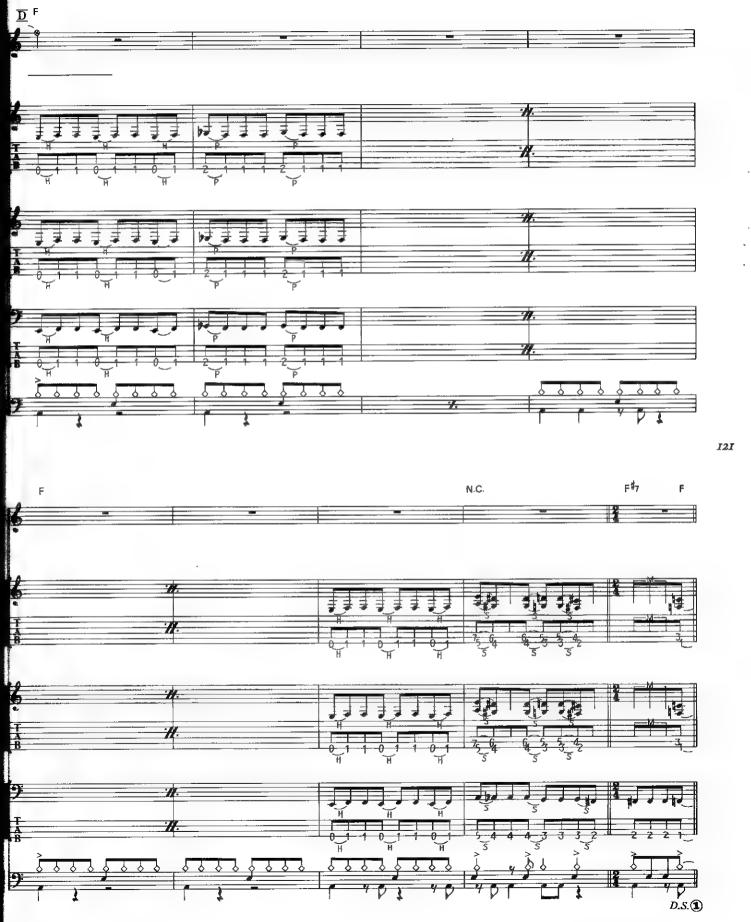


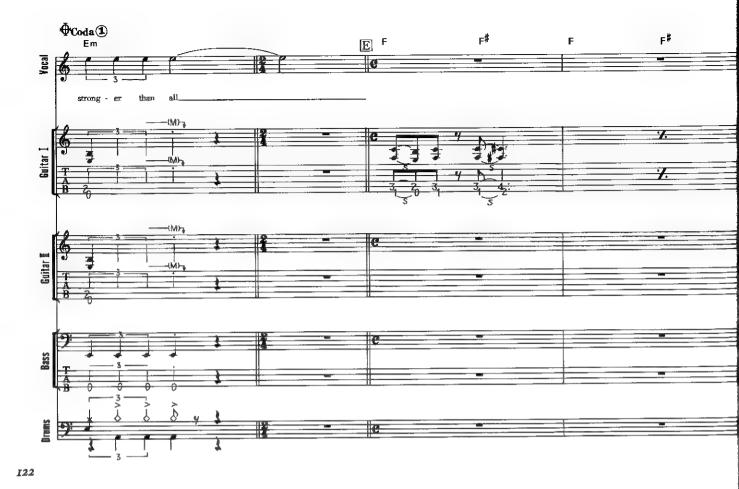










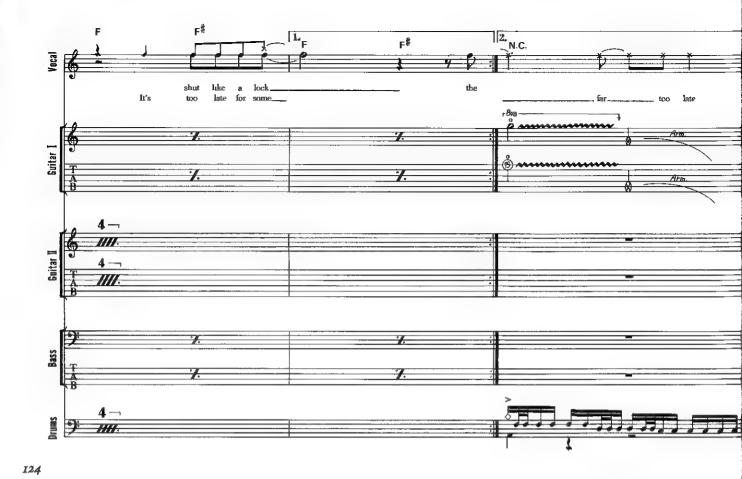




nnni!



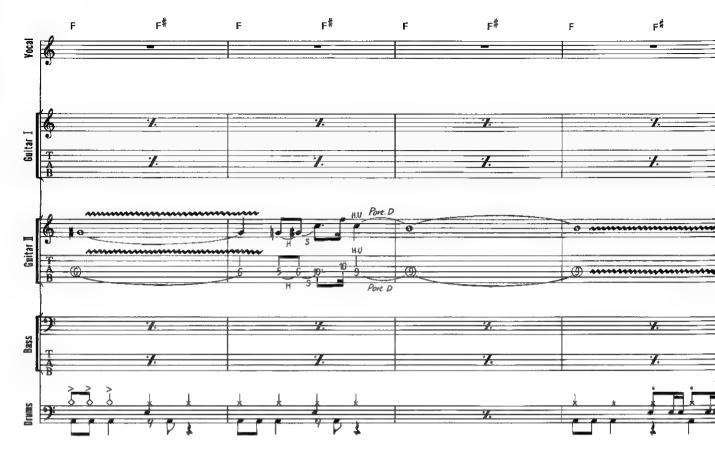
















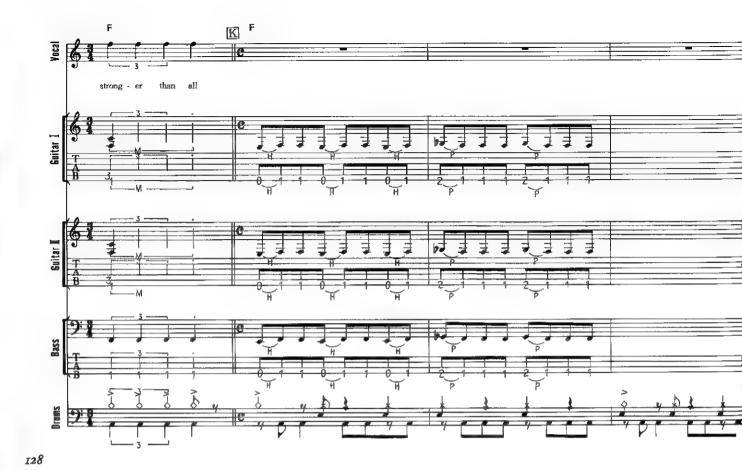


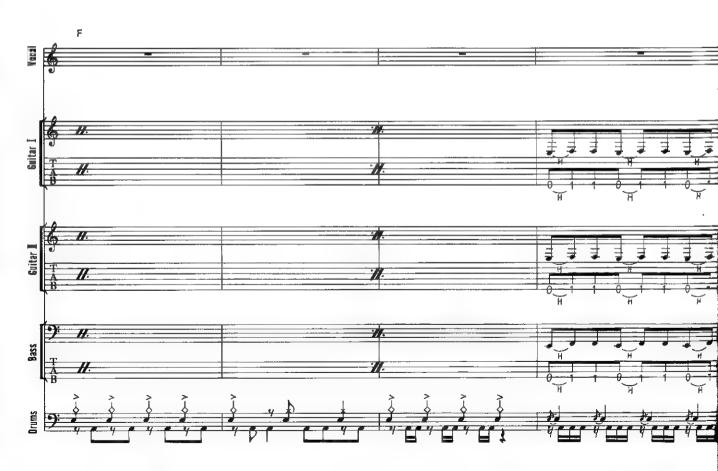
F#

F#

F#

F#









∳Coda② N.C.

N C.

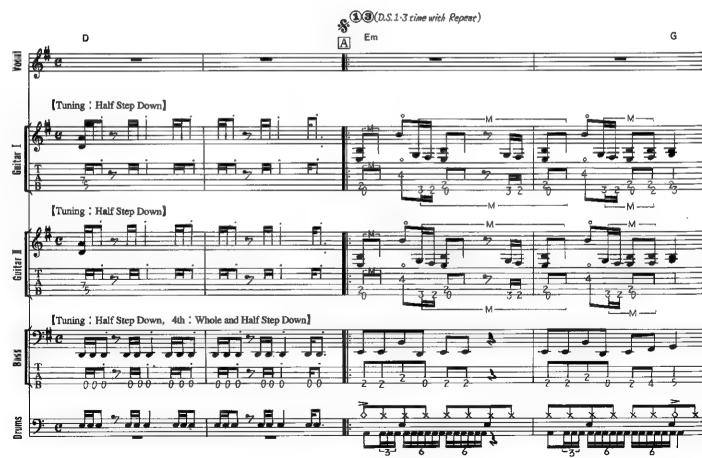
BECOMING

ブカミング

Words & Music by Vincent Paul Abbott, Darrell Lance Abbott, Rex Robert Brown, Philip Hansen Anselmo

この曲のギターは半音下げチューニングで、ベースは半音下げで更に 4弦を1音下げる、つまり4弦はノーマル音より1音半下げたチューニングで弾いている。イントロ、アフタクト部分の2小節はバンド全員がしっかりタイミングを合わせ、スタッカートも完全に音が消えるように注意しよう。ライブ等で演奏する場合は、曲のイントロ部分なだけに誰か一人でもタイミングが狂うと合無しになってしまう。従って、バンド全員がカウントに気を集中させ、更に2小節カウントをとるなどすると良いだろう。 風~ ②のギター・リフ、コードGの部分はルート+3thの省略コードで弾いている。普通ロックでは、ルート+5thの省略コードを使用するのが一般的だが、パンテラではダイムバッグ・ダレル曰く、"ヴァリエーションをつけるため"ということと、"いつもと同じじゃみんな飽きるから"という理由で、あえてこのようにルート+3thでプレイ

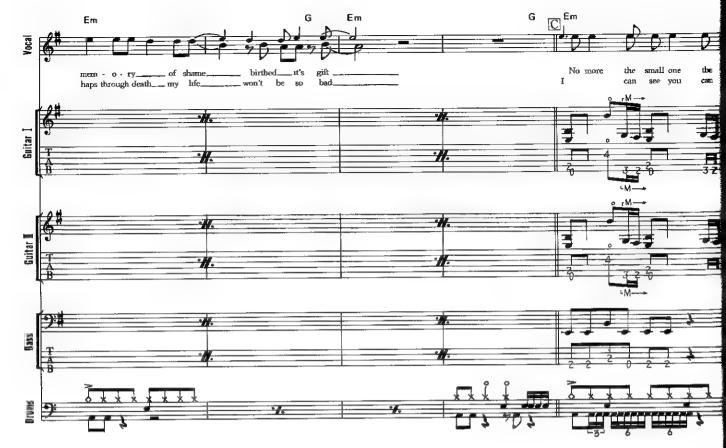
することが多いそうだ。 国~ [C] のギターで出てくるミュート奏法は右手の腹をブリッジのちょうど真上辺りに置いた、軽めのミュートでレイしよう。 国の Guitar 1 はハーモナイザーを使ったプレイだ。ここエフェクト音のみを出している。 更にアーミングを絡めて変化をつけいる。 譜面では、表現出来ないような部分なので細かいフィーリング原曲を聴いて掴むしかない。 ベースはテクニック的に難しい部分は基的には忠実にしっかりとリズム・キープして弾こう。 ドラムはツー・スによるキックの 6 連が頻繁に出てくるが、リズム的には単純で、1 小節目のように 1 拍 1 拍がはっきり区別しやすいフレーズになってる。 拍のアタマのタイミングに注意し、後はスピードについていけれ良いので、地道に練習を重ねれば出来るはずだ。

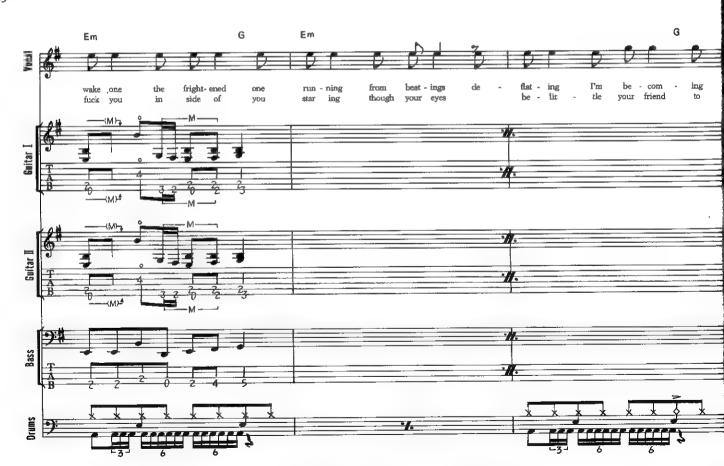


130

© 1994 by WARNER TAMERLANE PUBLISHING CORP All Rights Reserved. Print rights for Japan administered by YAMAHA MUSIC PUBLISHING, INC

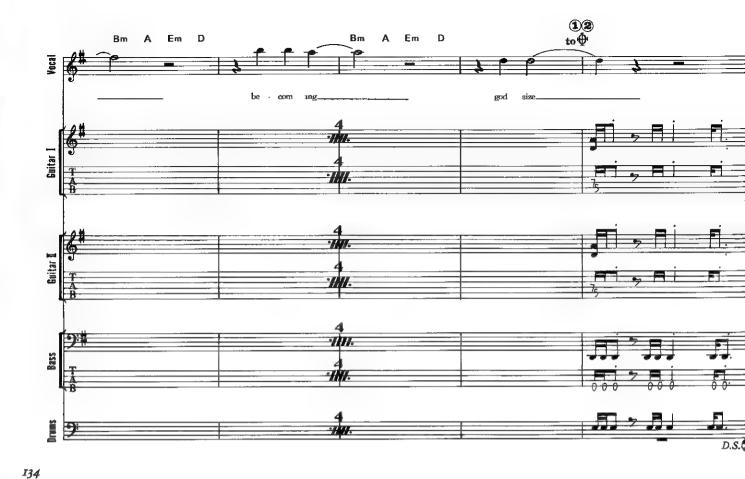






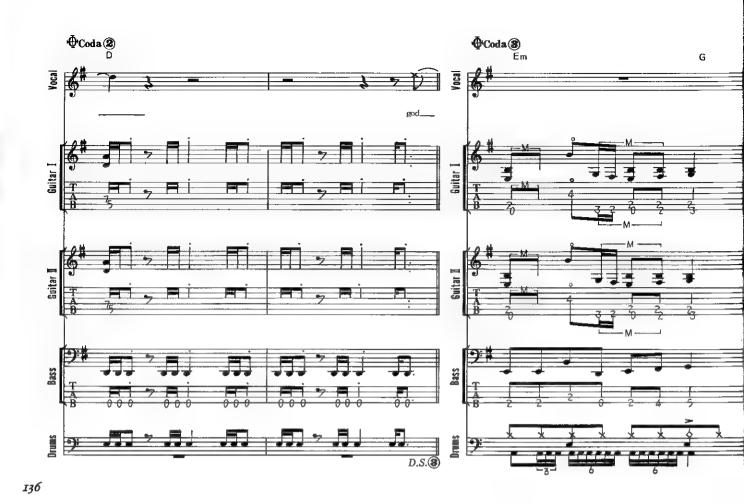


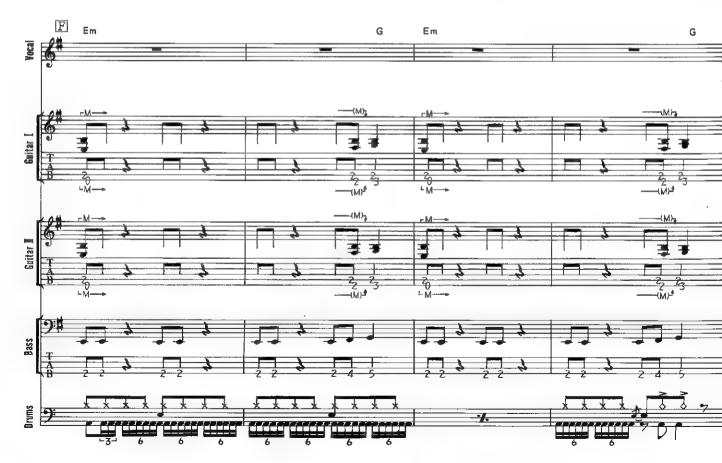












innanaaa.

I'M BROKEN

アイム・ブロークン

Words & Music by Vincent Paul Abbott, Darrell Lance Abbott, Rex Robert Brown, Philip Hansen Anselmo

8分の7拍子や4分の3拍子等の変拍子が印象的なミドル・テンポのナンバーだ。チューニングはギター、ベース共に1音下げでプレイしている。 B 4小節目のギター、3弦7fのビブラートは楽指で押さえるが、その手前の4弦/fは中指で押さえたほうが良いだろう。 Dの最終小節からの E の1、2小節はドラムを基準として8分の9、4分の4拍子と記譜しているが、ギターとベースに関しては、あえてその小節割を無**視**し、回最終小節、8分の9拍子の3拍目から E 1小節目の2拍目ま

でを1フレーズとして覚えてしまい、 E1小節目の3拍目から2小節 最後までの6拍分を4分の3×2拍子と解釈するとプレイしやすいだろう。 IIの1~12小節間は、ベースだけが完全な4分の3拍子のフレーズになっている。ここは小節数が分からなくなりやすいので、ギターのフレーズを覚えてしまうのが良い。ギター・ソロ11の1小節目はハーモナイズド・チョーキングで、2弦10fの薬指のみ1音チョーキングする。













Mark Editaries





PSYCHO HOLIDAY

サイコ・ホリデイ

Words & Music by Vincent Paul Abbott, Darrell Lance Abbott, Rex Robert Brown, Philip Hansen Anselmo

リズム・マシーンを使ったと思われる、機械的なパーカッションの6連符からこの曲はスタートしている。この曲では、16分音符がすべて3連符のノリになっているので注意しよう。特にドラムのバスドラは16分の連符が多いので、しっかりと3連のノリをキープしてもらいたい。ハイハットは8分で刻んでいるが、ハーフ・オープンにしてパワフルにプレイしよう。 △の直前の小節は、9/8拍子という変拍子になっている。ここは半拍分のブレイクが入っていると考えて演奏すると良いだろう。その他、 ⑤の2 小節前では2/4拍子の小節も出てきているので、リズム

に気をつけて各パートのタイミングをしっかりと合わせるようにしよう。 ® の部分のエフェクターとしてワウ・ペダルも使われている。 では長いソロ・ギターが弾かれている。ここのギター・サウンドはバッキングと同様にハード・ディストーションのかけられたものだが、バッキングとサウンドを変えて、少しソフトな感じでプレイしている。ソロの最後の音は24フレットでのチョーキングだ。22フレットまでのギターでは、アームを使って音をアップさせると良いだろう。



 145

























CEMETERY GATES

セミトリー・ゲイツ

Words & Music by Vincent Paul Abbott, Darrell Lance Abbott, Rex Robert Brown, Philip Hansen Anselmo

△の部分、ギター2はアコースティック・ギターを使ってのアルペジオ・プレイだ。このフレーズでは開放弦の音を鳴らしている間に、素早くボジションを移動させるのがポイントとなるだろう。なお、使っているギターはフォーク・ギタータイプのスティール弦を張ったものだ。ギター1はディストーションのかけられたエレクトリック・ギターが使われている。このギターには、この部分のエフェクターとしてディレイもかけられており、雰囲気のあるフィル・イン・フレーズを弾いている。この曲ではキーボードとしてピアノも使われている。短音ではあるが、低音で印象的なサウンドを鳴らしているようだ。この△の部分のベースはピアノとユニゾンに近いフレーズを弾いているが、ピアノよりも動きが多く、△の3小節目ではハーモニクス奏法なども行っている。②

からのギター1は2本のギターによるオーバー・ダビングされたものになっている。また、ハーモナイザーのようなエフェクターもかけられており、実際には3本以上の音が鳴っているようだ。 国からは曲の雰囲気が変わっている。ここからはギターも2本ともにエレクトリック・ギターが使われ、2本をユニゾンで鳴らして、ハードで分厚いサウンドを作り出している。このギターの譜面で○印の付けられている音は、ビッキング・ハーモニクス奏法で行っているものだ。 国ではミュートのテクニックを使った音も出てくる。これは右手の腹の部分を弦に少し触れるようにしながらピッキングしている。 回のギター2は 囚の部分と同様のアルペジオ奏法だが、ここで使われているのはエレクトリック・ギターだ。ここではコーラス系のエフェクターがかけられている。



155

















Dmaj9⁽¹³)

F#m



















ork i nend





THIS LOVE

ディス・ラヴ

Words & Music by Vincent Paul Abbott, Darrell Lance Abbott, Rex Robert Brown, Philip Hansen Anselmo

ナチュラルでクリアなサウンドがIntroから弾かれている。このギターにはコーラス系のエフェクターがかけられており、ここではアルペジオ奏法を行なっている。この部分は、ベースやドラムもボリュームを控えめにした演奏をしている。この部分、パーカッションとしてカバサも入れられている。この部分から叩かれている8ビート・パターンは、リム・ショットを使ったおとなしいパターンではあるが、あまり力を抜かずに、次第にパワフルに叩くようにしよう。同の部分で弾かれているギター・ソロは、ディストーション・サウンドでのプレイだ。ここはアーミングのテクニックを多用しており、エフェクターとしてワウ・ペダ

ルも少し使われている。ででは一気にパワフルな演奏になっているギターのサウンドもハード・ディストーションのかけられており、広りのあるサウンドになっている。 Gは16ビートのリフと、ギターと・一スのユニゾンで弾いている。 4小節目では、3連符のフレースもあるので、正確なリズムでプレイしてもらいたい。 』は少し長めのキョー・ソロを弾いている。他の曲と比べて早弾きなど難しいフレーズに乗いていないが、ここもワウ・ペダルをうまく使って感情を込めるよう、弾くと良いだろう。



© 1992 by WARNER TAMERLANE PUBLISHING CORP All Rights Reserved 3nnt r ghts for Japan administered by YAMAHA MUSIC PUBLISHING -NC

i annanit







in to of talance and a an earlie at the 25 % 12 % or ...















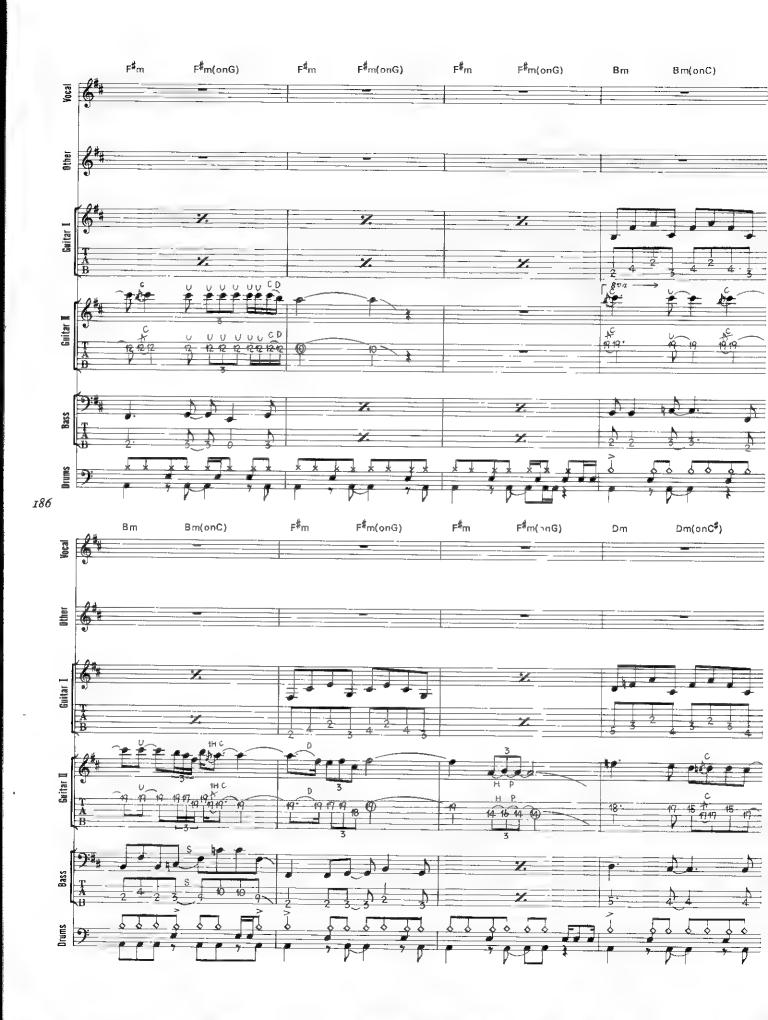


the entre entre entre entre effet 18 de .























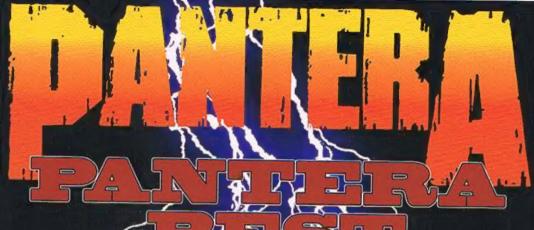
ISBN978-4-401-36309-4 C0073 ¥3500E

★定価(本体 3,500円+税)





1920073035008



SANCO MUSIC ENTERTRIMENT OF LTD.

